

平成29・30年度

鹿児島市教育委員会研究協力校「外国語活動」

研 究 主 題

他者との関わりを大切にし、
豊かにコミュニケーションを図ろうとする
児童の育成を目指して



日 程

13:25 13:40 14:05 14:15 15:00 15:15 15:55 16:10 16:20 16:40

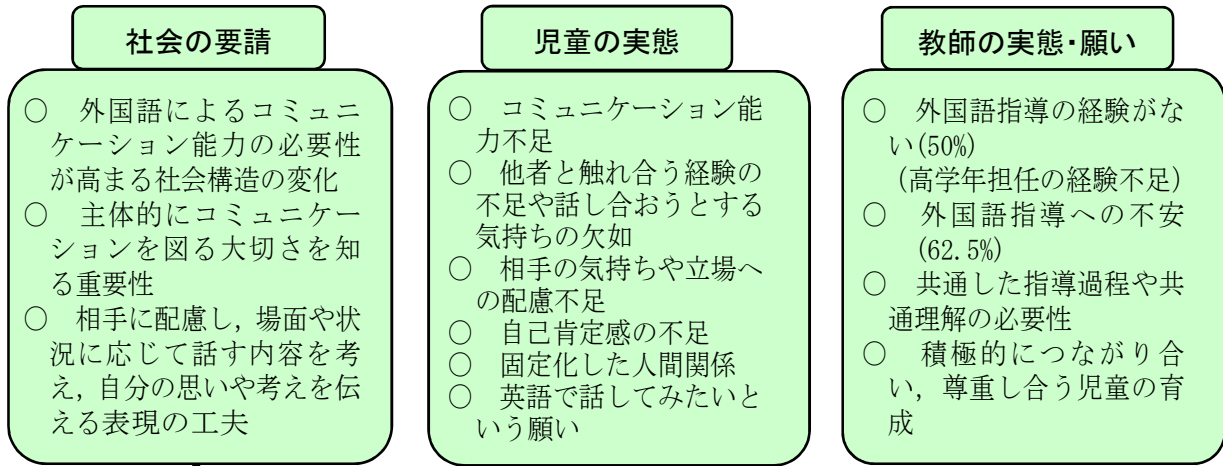
受付	全体会 I		移動・準備	公開授業	移動・準備	分科会		移動・準備	全体会 II	
	開 会 行 事	研 究 発 表		3年 What's this?		授 業 研 究	指 導 助 言		指 導 講 話	閉 会 行 事
				5年 Where is the treasure?						
10分	15分	10分	45分	15分	40分	15分	10分	15分	5分	

平成31年2月15日(金)

鹿児島市立平川小学校

I 主題について

1 主題設定の理由



2 研究主題

他者との関わりを大切にし、豊かにコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

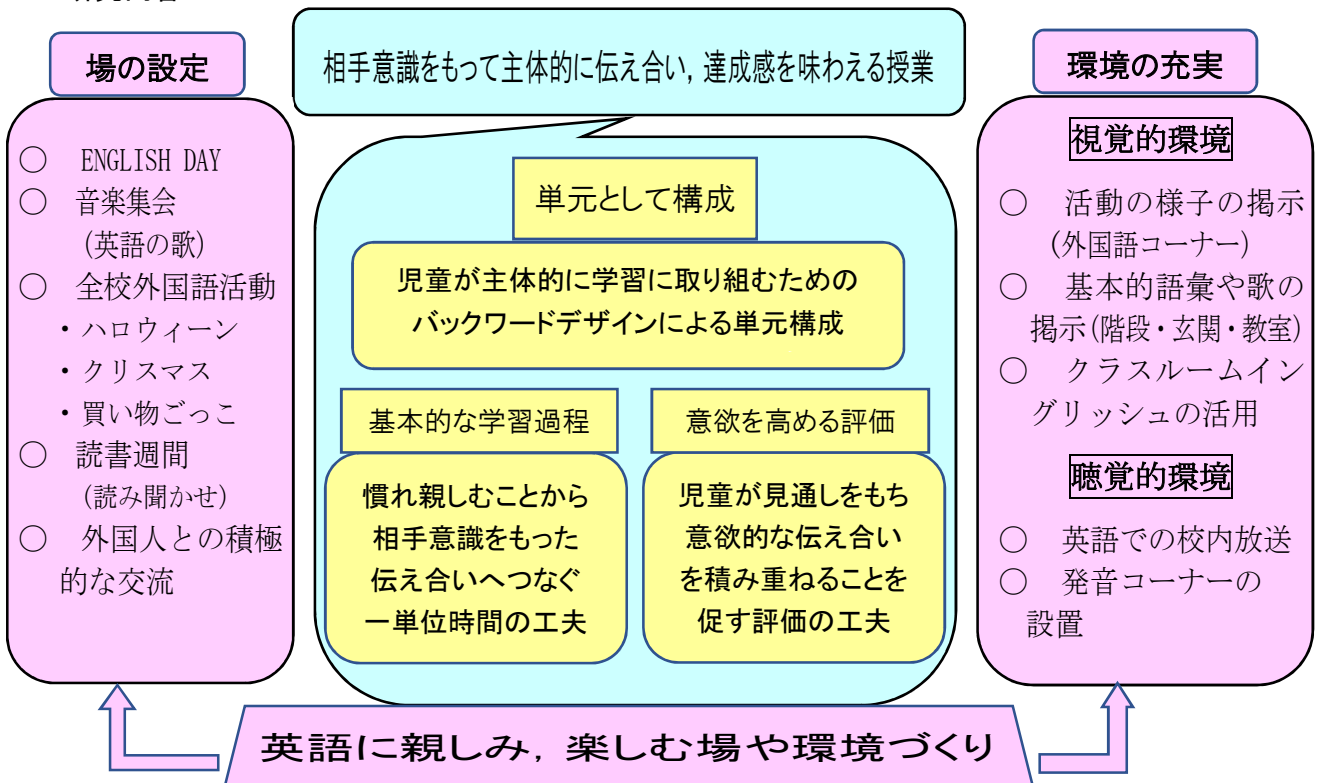
3 他者との関わりを大切にし、豊かにコミュニケーションを図るとは

まわりの人と気持ちや思い考えを伝え合う喜びを感じながら、慣れ親しんだ英語の表現や身振り手振り、顔の表情、視線などの非言語メッセージを駆使しながら、友達や様々な人に自分から話しかけたり、相手の反応を聞きそこに自分の考えや思いをのせたりして会話をつなぐことである。

4 研究仮説

英語に親しみ、楽しむ環境と場を整えるとともに、相手意識をもって主体的に伝え合い、達成感を味わえる授業を行えば、豊かにコミュニケーションを図る児童を育成することができるのではないか。

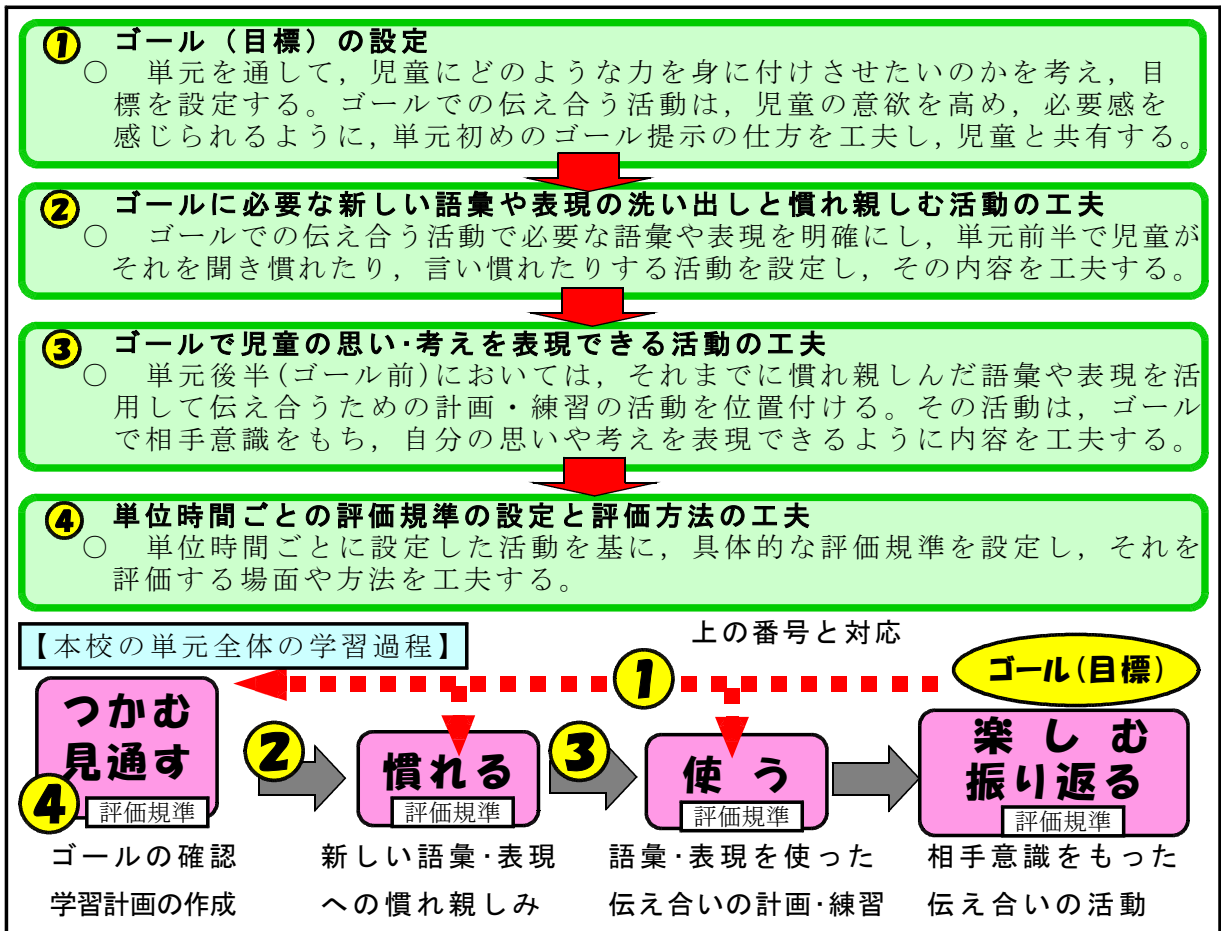
5 研究内容



II 研究の実際

1 児童が主体的に学習に取り組むためのバックワードデザインによる単元構成

- ゴール（本単元で目指す児童の姿）を明確にし，ゴールから逆算して1時間ごとの目標を決め，活動を組み立てながら単元を構成し，児童の主体的な学習を促す。



- ### 2 慣れ親しむことから相手意識をもった伝え合いへつなぐ一単位時間の活動の工夫
- 一単位時間の基本的な流れを踏まえ，児童が単元のゴールに必要な語彙や表現に慣れ親しみ，それを友達との伝え合いで相手意識をもって使い，楽しむことができるような手立てを工夫する。

【本校の1単位時間の基本的な学習過程】

※CP：コミュニケーションポイント

過程	活動内容	教師の手立て
つくる	① 始まりの挨拶や日付，曜日，天気などを確認し，教師と学習の雰囲気をつくる。	○ 教師自身が，CPの「Smile」や「Clear Voice」を心掛け，学習の雰囲気づくりを行う。
	② 前時までに親しんだ語彙や表現を使って，復習する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 中学年 身体表現を伴う歌・チャンツ 高学年 必要な表現を使ったやりとり (Small Talk) </div>	○ 高学年では，自分のことを交えたやりとりをさせることで，考える力を高められるようにする。 ○ Classroom English を使った反応ができるように助言する。
つかむ	③ 前時までに学習したことを振り返り，本時のめあてや学習することをつかむ。	○ 学習計画表や振り返りカードを活用し，児童が本時の学習に意欲をもち，自分なりのめあてをつかむことができるようにする。

4 実践例

(1) 単元構成

4年生 This is my favorite place. (全4時間)

単元ゴール: 学校の中の好きな場所を紹介し合い、お気に入りマップを作ろう。

**つかひ
見通す**

第1時 ゴール場面の共有・学習計画の作成

スキットを見て、「友達にお気に入りの場所を伝えたい!」「みんなで
お気に入りマップを作りたい!」という意欲をもつ。教師と一緒に話し合
いながら学習計画を作成する。

慣れる

第2時 必要な語彙や表現への慣れ親しみ

「教室名」「教科名」「道案内」の語彙・表現を十分に言い慣れるよ
うに、ゴールを意識したゲームやチャンツで練習する。

**使
う**

第3時 場所・理由の決定、伝える工夫についての話し合

伝えたいお気に入りの場所やその理由をじっくり考える。相手意識を
より高めるため、相手に分かりやすく伝える工夫をグループで話し合う。

**楽し
む
振り返る**

第4時 お気に入りの場所の相互紹介、お気に入りマップ完成

相手意識をもち、お気に入りの場所・理由を紹介し合い、お気に入り
マップを完成する。単元全体の振り返りを行い、達成感を味わう。



(2) 一単位時間の活動の工夫

**つ
く
る**



気分、曜日、月日、天気を探ねた
後、身体表現を伴う歌やチャンツで
学習の雰囲気をつくる。高学年はス
モールトークを行う。

**見
つ
通
か
す
む**



教師とAEA・ALTとのスキットを見
せて、本時のめあてについて見通し
をもたせる。本時の学習内容や方法
について確認させる。

**慣
知
れ
る
る**



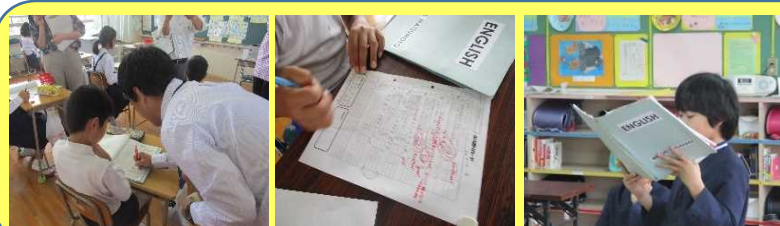
ピクチャーカードやリズムボックス
を活用してチャンツを行う。ペア・グ
ループで、ポインティングゲームや
キーワードゲーム、ミッシングゲー
ム等で、インプットからアウトプット
へ段階的につなぐ活動にする。

**楽
使
し
む
う**



CPやクラスルームイングリッシュ
を意識させ、友達や先生とのやり取
りを楽しませる。机間指導をしなが
ら、特に気を付けてほしいCPにつ
いて活動の途中で指導助言したり、
称賛したりする。

**振
り
返
る**



振り返りカードの記述を確認し、
個に応じた称賛・助言を与えなが
ら意図的な指名につなぐ。自分の
成長や友達よさを確かめ合いなが
ら本時の学習への満足感を味わ
わせるとともに、次時への意欲
をもたせる。

③ 評価の実際

- 評価規準の作成 ※ 新学習指導要領の目標を加味した内容
- 相手に配慮しながら、自分が気に入っている校内の場所を選んで伝え合おうとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
 - 「教室」「教科」の言い方や自分のお気に入りの場所を伝える表現に慣れ親しむ。【外国語への慣れ親しみ】
 - 世界と日本の学校生活の共通点や違いに気付く。【言語や文化に関する気付き】

外国語活動 ふりがえりカード Lesson 8 4年 ()

This is my favorite place. お気に入りの場所をしょうかしよう。

たんげんのゴール
校内の好きな場所をしょうかしようし合い、お気に入りマップを作ろう！
なれ親しむ表現：「教室などの名前」「道案内のしかた」

① たんげんのゴールやゴールまでにどんな習をするかが分かりましたか。	④	3	2	1	(○) えがお (smile) (○) はっきりとした発音 (clear voice) (○) 目を見て (eye contact) (○) 動きをつけて (gesture) (○) 反のうする (response)
1 ② 「教室などの名前」「道案内」の言い方で練習することができましたか。	4	③	2	1	
今日の自分	わたしは、なむねやなむねやが英語でどう言うのか、を、習ひてますよ。				
友だちのよさ	さんが、先生のお気に入りの場所まで形を動かさずにお話です。ごいなどと思いき、次はわたしもやりたいです。Good!! ゼロ フジは、おれい。				
① 「日本の学校」「外国の学校」のしているところやちがいが分かりましたか。	4	③	2	1	(○) えがお (smile) (○) はっきりとした発音 (clear voice) (○) 目を見て (eye contact) (○) 動きをつけて (gesture) (○) 反のうする (response)
2 ② 「教室などの名前」「道案内」の言い方や「お気に入り」の表し方なれてきましたか。	4	③	2	1	
今日の自分	わたしは、教員先生でよう先生といっしょにコマを動かして、おれい。				
友だちのよさ	今日は、さんが、先生のお気に入りの場所まで、人形を動かして、おれい。				
① 「道案内の仕方」を考え、ききな理由を添えるしめんひかできましたか。	4	③	2	1	(○) えがお (smile) (○) はっきりとした発音 (clear voice) (○) 目を見て (eye contact) (○) 動きをつけて (gesture) (○) 反のうする (response)
3 ② グループの友だちにわかりやすくつたわるように道案内をててきましたか。	4	3	2	1	
今日の自分	いつもよりたんとできるところになつてうれしかった。今日は、スキットができてうれしかった。さん、おれい。				
友だちのよさ	みんなは、おれい。				
① 「道案内」「理由」を相手に分かるように伝え合いましたか。	4	③	2	1	(○) えがお (smile) (○) はっきりとした発音 (clear voice) (○) 目を見て (eye contact) (○) 動きをつけて (gesture) (○) 反のうする (response)
4 ② すずんでゴールの活動に取り組み、楽しさを感じられましたか。	④	3	2	1	
友だちのよさ	みんなのルールがマップには、おれい。				

Lesson 8 全体のふりがえり

ゴールまでは、おれい。と思、たけどゴールまでうれしかった。このしめんひは、いろんなところで使えるかもしれん。みんなおもしろかったです。14までなれ、たけど、やるにつれて、上手になつたと思、ます。とてもおれい。

先生より
この単元がはじめてから、さんがお友達と習った言葉を、使って遊んだり、紫ペンを使って練習し、りするようおれい。見ることができました。ゴールに向かってよくがんばりおれい。Good!!

① 児童が本単元のゴールと慣れ親しむ語彙や表現を常に意識できるようにする。

② 評価規準に照らし、二つ程度に絞った評価の観点で4段階で自己評価させる。「今日の自分」の記述と併せて児童一人一人の学習状況を捉え、次時の指導改善に生かす。

- 第2時の「道案内の言い方やお気に入りの表し方への慣れ」の自己評価3の児童が3人いた。→ 慣れ親しみの活動をもう少し取り入れる必要性がある。
- 「校長室、保健室、家庭科室も上手に言いたい。」
- 「道案内の言い方に慣れてきたけど、お気に入りの言い方は難しかった。」

指導改善



ゴールのスキットを必要な語彙・表現の写真で具体的に提示 聞き慣れ・言い慣れ

③ 「友達のよさ」の欄に、友達の頑張りや工夫を記述させ、そのよさを自分の学びに生かしたり、学び合いを進んで行ったりすることができるようにする。

- 「○○さんがしっかり発音していたので、まねしたい。」
- 「最後まで聞き取りやすいように話していてよかった。」
- 「ぼくが分からないところを教えてくれて、ありがとう。まねしたいな。」

④ コミュニケーションポイントについては、特に心掛けたものに○を付けさせる。教師の行動観察（主に単元後半）と併せて、児童のよさを捉えていく。



⑤ 相手に分かりやすい表現にするため工夫ができたかを自己評価させるとともに、ワークシートの点検と併せて、相手に配慮した伝え合いをしようとしているかを見取る。

★相手に伝わる工夫★

話し手 大きな声で言う。 ゆっくりはっきり言う。	聞き手 しっかり聞く。 (友達の目を見る) きくと重く。 (友達の話しをしっかりと聞く)
--------------------------------	----------------------------------------------------------

- ⑥ 最後のゴールの時間には、児童に単元全体の振り返りをさせ、ねらいに向けて積極的な学びをしたか、達成感を味わえたかななどを見取る。
- 「みんなのシールがマップに貼れて、気持ちよかった。」
 - 「最初は自信なかったけれど、最後は元気に言えた。」
 - 「この学習はいろんなところで使えるかもしれない。」
 - 「練習していくにつれて上手になってよかった。これからも友達と楽しく英語を学んでいきたい。」
 - 「上手に言える自信がもてたのでうれしかった。」

5 場と環境

(1) 場の設定

【ENGLISH DAY】毎週木曜日は、全員英語で挨拶



【音楽集会】

【読書週間（読み聞かせ）】



【全校外国語活動】

全校ハロウィーン

全校クリスマス

全校買い物ごっこ



【外国人との積極的な交流】

全学年 ALT と交流

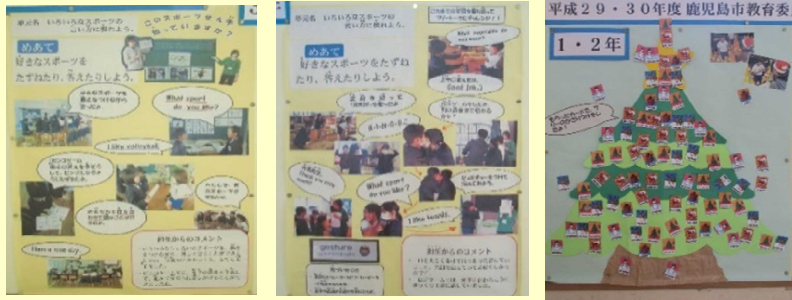
シンガポールと交流



(2) 環境の充実

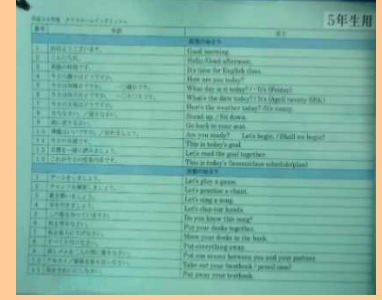
ア 視覚的環境

【活動の様子への掲示】



各学年の単元ごとの活動や全校外国語活動の様子を共通掲示板に掲示

【クラスルームイングリッシュ】



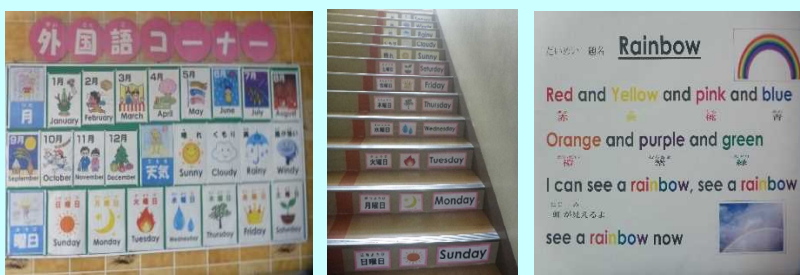
教室で担任が確認するためのカード

【基本的な語彙や歌の掲示】

挨拶での共通の語彙

曜日

歌の歌詞



共通の語彙を玄関に掲示 曜日等を階段に掲示 音楽集会での歌の教室掲示



使いたい表現を全教室に掲示

イ 聴覚的環境

【英語での校内放送】



日本語と英語による放送

【発音コーナー（らくらくペン）】

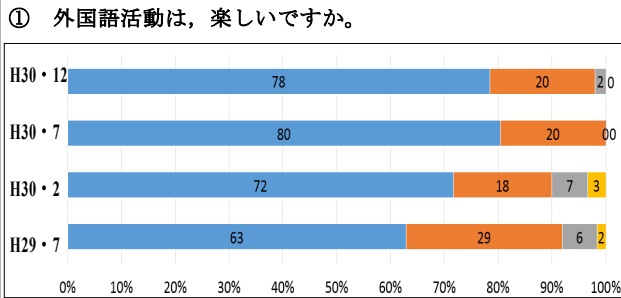


自由に正しい発音を聞いたり発音したりすることのできるコーナー



Ⅲ 成果と課題

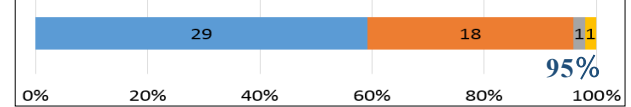
【児童のアンケート】 ① 外国語活動は、楽しいですか。 ※H30.12 児童アンケート結果



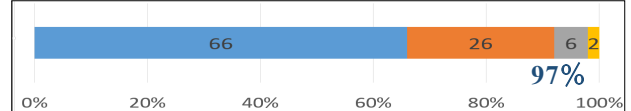
【教師のアンケート】

- 英語のスキルはまだ十分な自信はないが、児童と共に学ぶことで外国語活動を学ぶモデルとなることができた。
- ゴールを意識することで、どのような学びをさせればよいのか明確にできた。

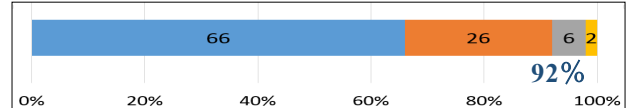
② 不安や心配なく進んで英語を使えるようになりましたか。



③ 「やってみたいな。できた！やった！」と思ったことがありますか。



④ もっと英語で話してみたいですか。



研究の成果

【児童】

- 単元の最終ゴールを示し、教師と共に立てた学習計画を基に学習を進めることで、見通しをもって主体的に活動し、達成感・満足感を味わっている姿が見られるようになった。
- 五つのコミュニケーションポイントを、常にやり取りの中で意識させたことにより、「笑顔」、「はっきりと発音する」、「相手の目を見て話す」ことについて意識して会話する姿が見られるようになった。
- 振り返りカードで自己評価、他者評価を行わせることで、自分や友達のよさを共有し、自己肯定感をもち、自信をもって他者と触れ合う姿が見られるようになった。また、ゴールに向かって積極的に自分の学びにつなごうとする意欲をもつことができた。
- 毎週木曜日のイングリッシュデーや全校外国語活動では、学習した表現を使いながら、他の学年の児童や教師と進んで関わり合い、英語でのやり取りを楽しもうとする姿が全学年で見られた。校内の外国語に関する設営に関心をもち、友達と歌ったり会話したりする姿が見られるようになった。

【教師】

- 低・中・高の発達段階・実態を踏まえ、単元の目標や指導の重点を明確にした授業づくりを行うことで、教師自身が授業に積極的に臨めるようになった。
- どの単元でもゴールを明確にした単元づくりをすることで、児童の達成感や満足感が高まることを目指し、どのような活動を取り入れればよいのかを考えた授業づくりができた。
- 全校態勢で授業づくりをしたり、共通実践をしたりすることで、外国語活動の指導に自信をもって取り組むことができるようになった。
- 単元の目標と一単位時間の評価規準や重点を明確にして振り返りカードを作成することで、児童の姿を焦点化して見取ることができた。また、振り返りカードを点検・分析することで一人一人の学習状況を把握し、児童のよさや課題を把握できるようになり、授業改善にも生かすことができた。

研究の課題

- 児童の意欲を高め、達成感・満足感を一層味わわせることができるゴールとなるように実態に合わせた設定をしていきたい。
- 「学習計画を立てる」「考えや気持ちを発表すること」への喜び・意欲に課題が見られるため、指導の手立てを考えていく必要がある。
- コミュニケーションポイントにおいては、動きを付けて表現することや相手の話すことを最後までしっかりと聞き、反応することに意識して取り組ませていく必要がある。
- 「自己評価」や「他者評価」を学級の児童全体で共有し、それぞれの学びに生かせるようにしていく必要がある。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした研究を進めていく必要がある。